

特 集 地域通貨（エコマネー）

地域通貨（エコマネー）という言葉聞いたことがありますか？最近、多くの自治体や商工会議所などが進めている、“善意”の価値のみを交換するための手段、いうなれば、「あたたかいお金」のことで。今回の特集はエコマネーの概要を説明します。

エコマネーは、環境、福祉、コミュニティ、教育、文化など、お金では表しにくい価値を、コミュニティのメンバー相互の交換により多様な形で伝える手段です。こうした価値をエコマネーという「新しいお金」で交換することにより、人と人との交流を促し、結びつきを強めることをねらっています。わたしたちは人からサービス（親切）を受けたときに相手に感謝の気持ちを何らかの形で表したいと思うことがよくあります。例えば、親切に身の回りの世話をしてくれたので、お金ではなく、“心から感謝の気持ちを伝えたい”というような素直な感情があるはずです。エコマネーは、そのような使う人の感情を媒介し、お金だけの市場経済の尺度では計れない価値を、その多様性を評価したうえで、流通させるものです。エコマネーの取引においては、サービス提供者の“思いやり”やサービスを受ける人の“感謝の気持ち”を反映できるように個別の取引ごとに相対で価格を決めます。その意味でエコマネーは「あたたかいお金」と言えます。

エコマネーを使って提供できる代表的なサービスは、具体的には、
福祉・介護に関するもの

全国的に大きな問題となっている介護に関する問題を解決するため、介護保険制度の対象となっていないサービス（たとえば、高齢者の話し相手になるといった心のケアサービスや送迎サービスなど）を提供する。

地域の奉仕作業や環境に関するもの

地域で花いっぱい運動を展開したり、ゴミのリサイクル活動に住民が参加したり、道路などの公共空間の清掃などのサービスを提供する。

生涯学習や総合学習に関するもの

自分の特技を利用して、生涯学習や総合学習の講師をしたり、公民館、小中学校などを活用した高齢者向けのパソコン教室を開設し、ボランティアの協力を得てインターネットを教えるサービスを提供する。

自分でやってほしいサービスとできるサービスをエコマネーを利用して交換することでお互いの利益になり、善意の循環が図れることになります。概ね、1時間の労働を単位として、1000（：地域通貨名）で取り引きすることが多いようです。

現在、国内で50余りのエコマネーが実際に流通しています。実験など小さなものまで含むと百を越すといわ

れています。主なものは右表の通りです。三好町も平成14年の2～3月に「じゃん」という通貨単位で実験が行われました。

愛知県内でもいろいろな場所で行われつつあります。

今後の展開に期待したいものです。

地域通貨名	地域、団体名	目的	活動内容
クリン	北海道栗山町、くりやまエコマネー研究会	介護・福祉、環境、教育、まちづくり	2000年2～3月に第1次試験流通（参加者250人）、同年9～11月に第2次試験流通（参加者553人）実施。コーディネーターを設置。60分＝1,000クリンを目安。2001年9月中旬、第3次試験流通スタート予定。
ピーナッツ（P）	千葉県千葉市、NPO法人千葉まちづくりサポートセンター	商店街活性化など	1999年2月に小切手型で試験運用開始、同9月より通帳型に切り替え。1円＝1Pを目安。2001年3月末時点で会員数は254（うち商店20）。ゆりの木商店街で毎月フリーマーケットを開催。
COMO（コモ）	東京都多摩ニュータウン、COMO倶楽部	コミュニティ再生	2000年6月より流通実験開始。メンバーは80人程度。コーディネーターを置かない。60分＝1,000COMOを目安。
おうみ	滋賀県草津市、地域通貨おうみ委員会	コミュニティ活性化、まちづくりなど	実験期間を経て、99年9月運用開始。公募会員組織の地域通貨おうみ委員会が発行管理する紙幣型（2000年10月より名刺サイズ）。1おうみ＝100円相当で、90分＝10おうみを目安。現金化は不可。
ZUKA（づか）	兵庫県宝塚市、NPO法人宝塚NPOセンターなど	NPO連携、まちづくり	2000年8～10月に第1次実験（参加者189人）実施。2001年6～11月の予定で第2次実験実施中。コーディネーター設置。30分＝1,000ZUKAを目安。円との交換不可。
だんだん	愛媛県関前村、グループだんだん	コミュニティ再生	1995年7月スタート（わが国初のタイムダラー）。コーディネーターを設置。30分＝チップ1枚を目安。